（別紙様式３）

令和４年３月 31 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　神奈川県横浜市中区日本大通１
管理機関名　神奈川県教育委員会
代表者名　教育長　桐谷　次郎

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和３年４月１日（契約締結日）～　令和４年３月３１日

２　指定校名・類型

学校名　神奈川県立山北高等学校
学校長名　岩本　明子
類型　地域魅力化型

３　研究開発名

未病・防災～高齢者比率４割の町で高校生が挑む少子高齢化

４　研究開発概要

教育課程の中心に総合的な探究の時間を据え、地域課題に係る問題解決学習に取り組む。探究の手法を学び、コンソーシアムの協力を得ながら地域課題を探究し、検討した課題解決方法の自治体への提案とその実現を目指すことにより、地域人材の育成を図る。

また、地域課題の探究に係る学校設定教科・科目を設置し、外部機関との連携を活用した教育を展開する。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　（開設している）　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　活用している　・　（活用していない）

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
石田　浩二	山北町教育委員会　教育長	関係行政関係機関の長
羽入田　眞一	早稲田大学教育・総合科学学術院教職大学院客員教授	学校教育に専門的知識を有する者
小村　俊平	岡山大学　学長特別補佐	学識経験者

７　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
山北町	町長　湯川　裕司
国立教育政策研究所教育政策・評価研究部	部長　渡辺　恵子
有限会社小田原ドライビングスクール	社長　秋山　実
株式会社ベネッセコーポレーション	営業本部長　吉野　隆弘
相日防災株式会社	社長　黒澤　麻志

山北町観光協会	会長　　佐藤　精一郎
山北町商工会	会長　　松澤　大輔
ＪＡかながわ西湘山北支店	支店長　佐藤　克徳
山北町都市農村交流活性化推進協議会	会長　　山田　肇
総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブ	理事長　松下　朗大
一般社団法人南足柄みらい創りカレッジ	代表理事　　樋口　邦史

８　カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	後藤　健夫	フリージャーナリスト	都度雇用
地域協働学習実施支援員	加藤　陽一郎	開成町教育委員会　教育指導専門委員	都度雇用
地域協働学習実施支援員	高杉　光男	山北町　農業委員会会長	都度雇用
地域協働学習実施支援員	藤原　浩	山北町都市農村活性化協議会　事務局長	都度雇用
地域協働学習実施支援員	堀田　往子	足柄上医師会足柄上地区在宅医療・介護連携センター 保健師・介護支援専門員	都度雇用
地域協働学習実施支援員	東海林　真純	森のおもてなしガイド副リーダー 看護師・森のセラピスト	都度雇用
地域協働学習実施支援員	草間　恵美	山北町保険健康課 管理栄養士（山北町食育推進計画担当）	都度雇用

９　管理機関の取組・支援実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
運営指導委員会関連	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
				○							○	
地域協働学習実施支援員関連	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
			○			○	○	○	○			○

（２）実績の説明

①　管理機関による事業の管理

○　担当者と管理職で定期的に情報を共有するとともに、取組状況を把握し指導・助言を行った。

（ア）カリキュラム開発等専門家の配置

・　学年会議、コンソーシアム連絡会議への出席や事業参観後の進捗状況等に関する協議に参加し、本事業全体の監修と教育課程全般について助言を行った。

・　10 月以降は、12 月の発表会に向けて細かい部分での打合せを行い、特にパネルディスカッションの進行に関して、連絡を密にした。

（イ）地域協働学習実施支援員の配置

・　今年度、新たに３名の支援員を迎え、支援員の特性を踏まえた協働体制を構築した。

・　校内の企画及び学年会議、コンソーシアム連絡会議等に参加。外部人材、団体（学校関係、地域住民関係、企業関係）の活用に向けて調整を行った。

・　随時、学校と外部団体とのフィールドワークについて打合せを実施した。

・　授業に参加し学習に関わる「学びの場」を提供するための連絡調整を行った。

② 管理機関による主体的な取組

・ 「未病」「地域防災」に関する生徒の探究活動に係る本県担当部署及び企業との連絡・調整を行い、高校の事業の推進を図った。

・ 山北町に対して、地域協働学習実施支援員の配置に関する人的支援の継続を依頼した。

・ 学校設定教科・科目の設定及び有効な活用方法について、指導・助言を行った。

・ 事業に係る定数加配により教員１名を配置した。

・ 会計処理や校内整備、校外各団体との連絡調整を担当する非常勤職員１名（29 時間/週）を、事務業務支援員として配置した。

③ 事業終了後の自走を見据えた取組について

・ 事業終了後の非常勤職員等の支援について、所管課と継続的に協議を行っている。

・ 事業終了後を見据えた山北町との連携について、継続して調整を行っている。

１０ 研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
「総合的な探究の時間」の活用	すべての「総合的な探究の時間」を研究開発に充当											
コンソーシアムにおける研究開発				○								○
研究成果報告･事業成果の作成及び検証	１回	１回	１回	１回			１回	１回	２回	１回		
専門家等アドバイザーとの協働によるカリキュラム開発			１回	１回			２回	３回	３回			

（２）実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

○ 総合的な探究の時間「未来探究」（以下「未来探究」）の取組＜１学年＞

・ 「未病」「地域防災」の２つの単元に分けてグループ学習を実施、最終週ではクラス内で各グループによる成果発表会を実施した。

・ 「未病」については、未病の概念等、基礎的な知識を学び、その概念を社会に広げるための効果的な方法を検討・考察し、発表した。

・ 「地域防災」については、自然災害の種類や基礎知識を学習し、その上でテーマを絞り、テーマに沿った災害について調べた。調べた結果を基に、防災の観点から自分たちで実行可能なことについてまとめ、その内容を発表した。また、12 月に西丹沢ビジターセンターを訪問し、自然林と人工林の違いについて学んだ。人工林では、根の張り方が自然林と違うため、大きな土砂災害は防ぐことができないことなどを学んだ。

○ 未来探究の取組＜２学年＞

・ 生徒一人ひとりが「My プロジェクト」という学習テーマを持ち、課題解決学習を推進した。

・ 小グループに分かれて授業を展開した。11 月 12 日のグループ内発表会、グループ代表による 11 月 26 日の学年全体発表会を経て、12 月発表会の学年代表を選出した。

○ 学校設定教科「あしがら」の学校設定科目「未病」「地域防災」＜２学年＞

・ 「未病」のフィールドワークで、me-byo valley BIOTOPIA の見学をし、未病改善に関する運動方法や食事の献立について学んだ。また、神奈川衛生学園東洋医療総合学科長の講演を聞き、体の仕組みを詳しく知ることができた。さらに、ダイヤモンドプリンセス号乗船者の

対応をした足柄上病院の新型コロナウイルス感染症担当医師の講演において、当時の船内の様子や、第５波が広がった時の病院内の様子など、ニュースだけでは知りえないことを聞き、当時の緊迫感を実感した。そして、学習した内容を活用して「健康に関する商品」を考え、その商品を効果的に宣伝する広告を作成した。

・　「地域防災」のフィールドワークで、神奈川県総合防災センターを見学し、大地震等の災害が起きた時にどのような行動が必要かについて学んだ。また、相日防災株式会社社員の講演では、災害後の現地の状況と、避難場所での生活などの具体的な問題点を挙げ、それに対処するための防災備品についての説明を受けた。また、授業では防災について学び、そこで得た知識を使って、誰にでも分かりやすい防災ハンドブックを作成した。

○　未来探究の取組＜３学年＞

・　２学年までに行っていた「My プロジェクト」の内容をブラッシュアップさせた。

・　６月、山北町議会議員に向けて、２グループの発表を行った。（山北町生涯学習センター）

・　10 月に学年発表会を行い、学年代表を選出した。

○　研究成果発表会（12 月 17 日）　校内　＜全学年＞

・　24 会場に分かれ、発表会を行った。県教育委員会、町教育委員会、大学等から 24 名のコメンテーターを招き、会場ごとに指導・助言を受けた。

○　研究成果発表会（12 月 18 日）　松田町生涯学習センター　＜全学年＞

・　午前と午後に分けて、生徒代表６グループによる発表を、それぞれ２回行い、午前・午後合わせて、120 名以上が来場した。

・　午前は、本校２学年全生徒と近隣の中学校３年生及びその保護者に向けてステージ発表を行い、１階の展示ホールでは、これまでの３年間の取組について、展示による発表を行った。

・　午後は、第１部と第２部に分け、第１部は午前と同様に、生徒代表による発表を行った。第２部は、３年間の取組について教員が発表し、その後、「山北町と探究学習」をテーマに有識者によるパネルディスカッションを行い、発表会終了後に情報交換会を行った。県内の教職員だけでなく、他県の教職員や大学教授、コンソーシアム関係者等が集まり、１時間程度の大変有意義な情報交換となった。

○　山北町への「政策提言」（１月 14 日）　＜代表生徒＞

・　２学年１グループ、３学年２グループ、計３グループによる発表を行った。

・　町長・副町長・教育長をはじめ、山北町議会議員、山北町職員、学校関係者、希望する町民等、合わせて 100 名近くが来場した。

②　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

○　１学年では、「未来探究」の充実を図り、２単位を設置した。

・　２学年で学習する「未病」「地域防災」についての導入的な学習の充実を図るなど、適切な科目選択に資する活動を取り入れた。

○　２学年では、学校設定教科「あしがら」に学校設定科目「未病」、「地域防災」（各２単位）と、「未来探究」（１単位）を設置した。

・　担当教員が創意工夫を凝らし、実践的な活動を進めた。

○　12 月に成果発表会を２日間行った。さらに１月に山北町への「政策提言」を行った。

③　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

○　教科等横断的な授業計画を学校全体の取組として体系化し、各教科が情報を共有した。

○　様々な教科で課題解決したことを活用できる教科等横断的な探究活動を実施していくため

に、科目の異なる複数の授業において思考力を高める授業展開を目指した。
○　探究学習で得た知見を各教科の学習に生かすことができるよう「未来の山北高校を探究しよう」をテーマにカタパルト株式会社の協力により職員研修を実施した。（７月 21 日）。
④　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制
○　授業改善のテーマを「生徒の思考力を高める授業展開」として校内研修を実施したところ、事後に行った授業において、生徒が意欲的に学習に取り組む姿も見られた。
⑤　学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
○　校内組織再編を実施し、資源を生かしながら、協働を通して、目的達成のために自らの意志を持って継続的に事業運営を行う学校組織を構築した。
○　定期的な事業研究会議を実施することで、コンセプトを共有し、各セクションの進捗状況の確認を行うとともに、学校運営協議会を有効に活用し、そこで出された意見を取組に反映させた。
⑥　カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
＜カリキュラム開発等専門家＞
○　授業参観を行ったうえで、単元による学習活動の展開への指導・助言を実施した。
○　学年会議、コンソーシアム連絡会議への出席や各企画参観後の進捗状況等に関する協議に参加し、本事業全体の監修と教育課程全般について指導・助言を実施した。
＜地域協働学習実施支援員＞
○　外部人材、団体（学校関係、地域住民関係、企業関係）の活用に向けて連絡・調整した。
○　授業に参加し、学習に関わる「学びの場」を提供するための連絡・調整を行った。
○　講演会の講師依頼や、プレゼンテーション資料に関する助言等、昨年度よりも関わりの幅が広がった。
⑦　校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
○　連携推進グループが研究開発を立案、学習支援グループが計画・実施に向けて調整・管理、キャリア教育グループが探究活動を生かした進路指導に連結させる指導体制とした。
○　学校を核とした地域協働活動に、山北町とともに着手した。その充実のために、今年度は新たに町から紹介された地域協働学習実施支援員３名を加えることができ、外部の人材を活用した取組を推進し、改善につなげることができた。
⑧　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
○　山北町役場や山北町議会へ本校の取組を報告し、生徒の考えた町の課題に対する施策を、発表をとおして町議会議員へ提言した。
⑨　運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について
○　運営指導委員として、山北町教育長石田浩二氏、早稲田大学教職大学院客員教授羽入田眞一氏、岡山大学学長特別補佐小村俊平氏に委嘱した。
○　第１回「令和２年度の活動報告及び令和３年度の活動計画について」（７月 21 日）
・　新型コロナウイルス感染症感染拡大対策として、神奈川県のガイドラインを遵守しながら、地域とともに、生徒の主体的な関わりを推進することについて協議し、広報活動と外部団体の設立に注力することを決定した。
○　第２回「令和３年度の活動報告及び令和４年度の活動計画」について（２月３日）
・　令和３年度研究開発完了報告書についての指導・助言をいただいた。文部科学省の指定が終了した後の活動方針について確認した。

⑩　類型毎の趣旨に応じた取組について

○　コンソーシアム団体の協力により、山北町フィールドワークを計画したが、新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため実施を見送ったが、12 月 22 日の自然体験は、地域協働学習実施支援員の協力のもと実施することができた。

○　地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組として、地域における地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知りコミュニティを支える人材育成を行った。

○　本校の特色ともいえる「スポーツの山北」の良さを継承した形で「未病」や「地域防災」の学びを通じ、高齢者比率４割の山北町の課題解決に取り組んだ。

⑪　成果の普及方法・実績について

○　令和３年12月17日に校内において、令和３年12月18日に松田町生涯学習センターにおいて、成果発表会を実施した。17日には、関係団体等から24名のコメンテーターを招き、会場ごとに指導・助言をいただいた。18日には、関係各所から来賓を招き、生徒代表による発表を聞いていただいた。

○　令和４年１月14日に山北町生涯学習センターにおいて、生徒代表３グループによる山北町への政策提言として「地域との協働による報告会」を行った。

○　令和４年３月 16 日、県教育委員会主催の県西地区探究学習に係る成果発表会において、地区内の高校を対象に、本研究の成果を代表生徒が発表した。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

<u>目標（１）「山北高等学校を中心に、行政・町民・企業が一体となる」ことについて</u>

①　進捗状況

・　町の広報誌に山北町と関連する事業及び研究成果発表会を掲載した。（令和３年５、９月号、令和４年２月号）また、活動内容を広報するため「学校だより」を作成し、町内全自治会に回覧（計２回）を実施した。

・　山北町議会事務局により、授業及び発表会を御参観いただき、町会議員に生徒の活動内容を紹介するとともに、取組の概要を説明し、事業についての理解を深めていただいた。

・　山北町都市農村交流活性化推進協議会は、１学年フィールドワークについて、コース設定のアドバイスや説明への協力人材の紹介などを行い、高校との連携協力体制が確立、今後のフィールドワークについても協力を得ることになった。

②　成果

○　令和４年１月 14 日に開催した山北町への政策提言の「報告会」の際、傍聴者にアンケートを実施した。この報告会について「よかった」とされた人は 97%、この機会に山北高校の取組への理解が「深まった」とされた人も 97%と、大きな成果となった。「高校生としての視点は大人では気がつかないようなアイデアがあり素晴らしかった」「高校生が地域について考えるだけでもすごいことと思う。それだけでなく行動し発表に至るまでの時間に感銘を受けた」など、肯定的な意見が大半を占めたことで、生徒の探究的な学びへの意欲がより高まると考えられる。

③　評価

○　目標設定シートの１アウトカムの a：「身近な人や地域の取組に関わり、協力することができるか」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合は、目標の 80%を達成し、その値を維持している。３年間の取組、特にフィールドワーク等によって、この力を定着させることができたと考えられる。a：「幅広い年齢の人々と関わり、多様な考えを尊重し、思いやることのできる能力」については、高い目標に対して近い数値を維持して

おり、本事業における取組、特にフィールドワーク等によりほぼ達成できたと考える。

目標（２）「『未病』、『地域防災』の２つの視点で、ＰＢＬを活用した『個人の成長』を求めるカリキュラムの開発研究」について

①　進捗状況

○　「未来探究」をベースに授業リンクさせている「未病」「地域防災」を中心とした探究活動を行った。研究成果発表会では、他学年の探究活動の状況を知り、外部の方からの講評を得ることもできた。さらに、これまでの山北高校における教育課程の実施状況を評価し、その改善に必要な人的又は物的な体制の確保と、この取組を組織的に計画・改善し、学んだことを地域社会へ還元する実際的な活用を図ることができた。

②　成果

○　教科等の枠を超え、「未病」「地域防災」というテーマが探究的な学びのひとつのきっかけとなり、生徒の視野が広がり、多角的な視点や批判的思考力を身に付けることができた。

・　複数の教科、科目で実施している授業内容と関係する場面も多くあるため、教科等横断的な学習の取組に連結することもできたことが、教職員対象に行った授業改善アンケートから明らかになった。また、『個人の成長』という点では、外部の人材も含めた研修会や公開研究授業、研究成果発表会等の企画立案・運営を通して、教職員が学ぶ機会も多くあった。

③　評価

○　生徒が自らの考えを論理的に構築する探究活動により、主体的・協働的に取り組む学習を推進し、課題解決能力や自己肯定感を育むことができた。生徒の興味・関心により選択の幅を広げ、地域のあらゆる課題を探究テーマと考え、地域探究と地域貢献の２つについて地域の防災・健康・産業・文化に関する調査発表を行った。山北町でのフィールドワークや外部向け発表会など、外部とのつながりの中で探究活動を進めていき、あらゆる視点から地域を元気にする方策を考え山北町への政策提言を行うことができた。今後はこれまでのこの取組成果を、他校へ広げていくことが課題になっていく。探究的な学びを通して、高校生の「意欲・価値観・学力」を育み、知りたいことや解決方法に近付ける力や、難しい課題の解決に挑む力を養い、生徒本人が将来生活する地域での地域政策や地場産業の担い手として、“地域の為に”や“社会の役に立つように”という意識をもって日々を過ごし、地域活性化をサポートする最前線で町づくりに関わっていくことを期待したい。

○　目標設定シートの１アウトカムの ａ：「身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができますか」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合は、開始当初の 43.5％から確実に数字を伸ばし、75.2％まで上昇した。取組を継続していくことで、さらに成果の向上につなげることができると考えられる。

目標（３）「Ｕターンを含めた地域で活躍し、地域を創生する人材の育成」について

①　進捗状況

○　町の魅力や歴史について、町や協議会と協力して授業を展開した。

・　１年生は、年度初めに山北町を散策し、河村城址など、町の歴史について感じることができた。また、西丹沢ビジターセンターを訪れ、山北町の産業に触れることができた。

・　令和４年１月 14 日に、山北町への「政策提言」を行った。発表者は、山北町の住民や山北町役場の職員が、高校生の活動に対し、期待をもっていることを感じ取ることができた。

②　成果

○　地域についての理解

・　実際に地域に足を運ぶことで地域への理解が深まり、その中で発見した地域課題に対して、

高校生の視点からの解決策を提案することができた。町の病院施設やインフラ、防災に関する内容など、中には町議会議員から好評を得たものもあり、実際に町の活性化に貢献できる可能性が十分にあると考えられる。

・　活動制限をせざるを得なかった状況下でも、生徒たちはフィールドワーク等を通じて山北町の人々や生活、産業などへの理解を深めることができた。そのうえで、生徒がより具体的に自分のできることを考えることができた。

③　評価

○　進路学習との連携による地域を創生する人材の育成

・　地域探究活動の中で、生徒の山北町への関心が高まったと捉えているが、今後、地域への愛着をさらに育み、生徒が実際にキャリアを考えるうえで、山北町で就職したい、起業したいと思うなど、より具体的な成果が生まれるような取組に発展していくことが必要である。

・　連携や探究活動を山北町だけではなく、足柄上地区へと対象地域を拡大し、支援を含めた協力体制を構築していくことが必要である。

・　地域の中学生、高校生を中心とした世代は、東京や横浜など都会への憧れがあり、都会での進学や就職を考えていると思われる。そのため本校の取組は、中学生にはその魅力が十分には伝わっておらず、入学志願者の増加に繋がっていない。本校の取組と地域への愛着について、いかに効果的に広報していくかが課題である。

・　目標設定シートの１アウトカムの ｂ：山北町に関係する就職を希望する生徒の割合について、ほぼ目標を達成している。この項目については、本事業以外の社会的な要因も大きく影響していると考えられ、今後も推移を見ながら、取組を工夫していきたい。ｂ：「山北町での生活を希望する」生徒の割合についてもほぼ目標を達成している。この項目については、2019年度の本事業対象生徒以外の数値との差に着目すると、本校生徒の山北町への思いの変化を実感することができる。また、本事業以外の社会的な要因が大きく影響していると考えられ、今後も推移を見ながら取組を工夫していく。

＜添付資料＞　目標設定シート

１２　次年度以降の課題及び改善点

・　生徒の取組が卒業後も継続していくよう、今後は学年を超えた授業展開の構築を研究する。

・　「未来探究」を核に据えた教科等横断的な学習活動の推進が求められる。

・　今後、地域や企業とどのように関わっていくことが可能かを検討する。以前から、地域美化活動、小学校・中学校との交流、町の行事への参加などを行ってきたが、今回の事業により、これまでは交流のなかった団体や地域とのつながりを広げることができた。山北町や地域住民が学校に、学校が山北町や地域住民に、それぞれ何を求め実現できるかを追求し、相互の一層の協力関係を継続的に築き上げていく必要がある。

・　目標設定シートの１アウトカムの ｂ：山北町に貢献することを希望する生徒の割合については、本事業を開始してすぐに目標値を達成しており、町の人々や、議会に関わる人との交流を通して、生徒たちの町への貢献意識が高まっており、生徒の今後の活躍に期待できる。

・　本校の伝統を活かし、かつ、今回の事業の継続で、「スポーツの山北」と「探究の山北」の二本柱で、生徒のよりのびやかな成長を支えていきたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	ＴＥＬ	045-210-8254
氏　名	川端　麻穂	ＦＡＸ	045-210-8922
職　名	専門員	e-mail	kawabata.fp7c@pref.kanagawa.lg.jp